

☐ はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

あうん

日付 平成 21年 2月 3日

特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成15年8月に開設し、5年間は設立時からこのホームの中心になって支えて来た施設長(両ユニットの管理者兼務)の元で利用者もこのホームの生活を楽しんできた。職員も自分自身を研鑽すると共に、利用者が自分を自由に表現出来、生き甲斐のある暮らしが出来るホームを築いてきた。つまり「一人ひとりを思い切り特別扱いしよう」という職員の思いがホーム全体に漂っていた。6年目を迎えて、未だこのホームの雰囲気は続いているものと思って訪問した時、社長から、急に施設長が辞めたと聞かされ、新しい管理者の人が紹介された。そして計画作成担当者も代わり、職員も入れ代わっていた。これ位職員が代わると、ホームの風土も再出発とならざるを得なくなったのだろう。昨年の外部評価時に、更なる発展を目指して第二・第三のリーダーを養成して貰いたいと提案したが、今年度は新しい体制のスタートとなった。

このホームは縦2階建になっており、1階と2階に2つのユニットがある。社長を中心に2つのユニットに別々の管理者が就任したので、今までと違った雰囲気になるだろうが、新しいホームに生まれ変わる積もりで、一日も早く元気なホームになって貰いたいと願っている。1階の管理者は「職員一人ひとりが自分の役割を掴んで、互いに支え励まし合っている。既に出来ているチームワークの中に溶け込んで行きたい。職員に助けられている」と自分の抱負を述べてくれた。このユニットは前の管理者から交替をしたという感じで、全体的に大きな変動はない。そして計画作成担当者も兼ねている。今までと違った良い雰囲気を作っていくのではないかと思う。一方2階は職員の変動が大きく、今から建て直しの感がある。管理者は「職員は同じ人が同じ時間に居るのではなく、何時も入れ代わりながら仕事をする。その為にはチームワークが必要で、利用者にはチームケアをして当たらねばならない。職員一人ひとりに自分自身の考えを聞いてきた」と言い、チームワーク作りを強調していた。計画作成者は介護職の中から新たに選任された。社長と2人の管理者が心をつなげて、職員も加わって新しい活気溢れたホームが再び近い内に出来、利用者も元気に楽しく伸び伸びと過ごせる日が来る事だろう。

特に改善の余地があると思われる点

社長がこのホームを開設して6年目、職員の変動があったにしても、このホームの歩んだ歴史の重みは尊い。利用者や家族にとって、又地域の人からの信頼は厚い。社長と管理者・職員共に、より良いホーム作りへの結束は更に強まるだろう。新生“あうん”の運営に際し、今何が必要か、如何にすれば良いか、全職員でよく相談して、具体的な目標を立て、一つひとつ積み重ねていけるよう頑張ってもらいたい。

利用者にとっては、このホームが一番の住処と信じて貰えるような心地良い暮らしと、安心・満足・信頼の気持ちの通い合う人間関係が出来る介護のプロ集団となるよう頑張ってもらいたい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：施設長が退職し、新しく2人の管理者が各ユニットに就任し、新しい体制となった為、理念をもう一度見直し、職員と共に理解を深めたいとしている。理念をケアやサービスに反映する為に、目標を新たに作る事も考えてみると良いと思う。 2、全体的に見て…：グループホームのケアとサービスを利用者に提供する事により「家庭の方にも安心と満足、利用者には伸び伸び楽しい第二の家庭を感じて貰いたい」という事が、このグループホームの理念である。 新しく就任した2人の管理者は、それぞれに自分のユニットをより良い住処にする為に強い思いを抱いており、二人に共通するのは職員のチームワークを再構築して、利用者に対しチームケアに徹するという気持を表明している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：ハードな生活空間に改善の必要はない。 2、全体的に見て…：ホーム近くの代表者の田畑を通りかかると、水辺で遊ぶ合鴨が迎えてくれる。合鴨が協力してくれて今年も豊作だった。稲を刈り取った畑は春にはれんげ畑になり、近くの幼稚園児と利用者達の交流の場となる。ゆったり広い敷地の所々にアンティークな石像があり、玄關横の立派な社には“あうん観音”が安置されている。リビングに入るに食卓を中心に、長ソファ・テーブル・ピアノの洋のコーナーと、豊に座卓・民芸調タンスの和のコーナーがある。昼下がり豊に横になり、気持ち良く昼寝をする人もいた。階段やエレベーターで2階ユニットに遊びに行くのも楽しい。外に出て敷地内を一周したり、周辺を散歩しても、あちこちに遊び心が溢れる工夫があり退屈しない。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…：ケアマネジメントの基本は、適切で職員の日常の仕事の根幹に結びつくものになっている必要があることから、介護計画を職員間で共有出来、モニタリングを正確にして、カンファレンスに繋がるプロセス等を確立していきたいと考えている。大変良い事だと思うので、是非良い方法を見出して欲しい 2、全体的に見て…：5年間続いたこのホームのケアマネジメントが、施設長の退職と一部の職員の退職により、職員が大幅に入れ代わった。利用者に対するケアは、その一つひとつのケア行為に当たる職員、つまり人間関係作りである。早急に体制作りに努力して、利用者が安心・満足・信頼の気持ちを持って、新しい暮らしが出来るような環境を構築していかなければならない。管理者はそれぞれに自分自身の抱負と思いを持っているので安心出来る。近い将来を期待したい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1、自主評価について…：施設長が退職し、新しい管理者2人が就任した。社長を始め管理者・職員で運営体制の再構築をしていく事になる。 2、全体的に見て…：代表者はこの地に住み、妻と共に地区の役員を歴任し、地域住民からも信頼されている。友人・知人も多く、個人的な地域のネットワークが出来ていて皆が協力してくれる。ホームの夏祭りには「絶対行くからね」と皆が言ってくれて、「何か手伝う事あったらするよ」とボランティアスタッフになって助けてくれる。徘徊癖のある利用者が近所の家に入り込んで「ええよ、うちの親もそうだから」と言ってくれて「私等がなったら、その時は頼むよ」と声を掛けられる。逆に代表者も、近所の人認知症になったら放ってはおけないと思う。地域から広く認められているホームには、認知症の事なら“あうん”へ行けば判ると頼りにされる地域の認知症の駆け込み寺になる素地がある。		